

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400940		
法人名	中村合名会社		
事業所名	ケアガーデンオアシス グループホーム「つきとほし」* * つき * *		
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町2番22号		
自己評価作成日	平成22年2月22日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>(つき) 「明るい笑顔でほのぼのとありのままの私とあなたで過ごしましょう」の理念のもと、その人らしさを大切に、お一人お一人に寄り添えるような個別のケアを目指しています。明るい方・歌の好きな方が多くいらっしゃるのでも活気に溢れていて、一日一回は大声出して心の底から笑っていただけるような明るい「もうひとつの我が家」と思っていたきたいです。入居者様に負けないくらい、明るくてノリのよいスタッフが多いため、毎日笑い声が響き渡っています。</p> <p>(ほし) その人らしく自由に安心して生活していただきたいと思い、日常生活の過ごし方を工夫したり、又家族や地域の方の協力を得ながら入居者の望む事に少しでも応えられるように日々努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>諫早市中心部にあり、交通機関のみでも気軽に訪問できる利便性の良い場所に位置するケアガーデン・オアシスは、先代の代表者の「今後は福祉の施設を作りたい」という思いを引き継ぎ、現在の代表者が平成16年に開設された。3階建ての建物の2～3階部分がグループホームつきとほしであり、1階部分がデイサービスと居宅介護支援事業所となっている。当ホームが大切にされていることは、入居前の生活を大事にした継続的支援、身体機能の維持、職員と利用者家族との信頼関係等であり、その人らしく暮らし続けることを支えるサービスが実践されている。職員同士の仲が良いことも特徴であり、笑顔は絶えず、皆が明るい。1年に1度の外部評価の機会を日頃のサービスを振り返る良い機会と捉え、今回も積極的に前向きに取り組み、今後も益々の発展が楽しみなホームである。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい笑顔でほのぼのと、ありのままの私とあなたで過ごしましょう」を基本理念としその人らしさを失わずその人らしい生活が地域の中で送れるよう取り組んでいる。	地域密着型サービスとして、つきとほしそれぞれのユニットで、地域との交流を大切にする支援が理念に込められている。職員と利用者も散歩の途中に地域の方へ声をかけるなど日頃からの実践に繋がっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけ近隣の方達と挨拶を交わし、顔馴染みの関係を築けるよう努めているが、インフルエンザが流行してから買い物は控えている。	保育園児の慰問、授業の一環として訪問する小学生、中学生の福祉体験学習、そして町内会の運動会に参加するなど様々な世代の地域の方との交流が盛んに行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム交流会・運営推進会議などに参加し認知症についての勉強会や地域の方々にも理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況や行事などを報告している。会議での外部の方々の率直な意見や感想等は、スタッフ会議で報告し現場での実践につなげる努力をしている。	運営推進会議は、家族代表1名、民生委員、町内会班長、市職員、同地区の他グループホーム施設長等の参加メンバーで、事業所からの報告のみに留まらず、参加者からの意見もある。今年度は、現在までに3回開催されているが、来年度からは、奇数月の2ヶ月に1回実施していく予定である。	定期的な運営推進会議の開催により、より地域に開かれたホームとなり、さらなる質の確保・向上が図られることが期待される。また、意義や目的を知ってもらうことも大切であるので、家族へも会議の開催・内容等を報告することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や介護保険の申請時に相談や情報交換をするなど協力体制を築けるように取り組んでいる。	現在、諫早市高齢介護課の職員1～2名が運営推進会議に参加されている。疑問点や気になる点は積極的に尋ねており、今後も連携を図っていきたいとしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人で外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけし止めるのではなく一緒に散歩したりしている。	身体拘束排除のためのホームとしての方針は定めていないが、身体拘束は安全面を配慮して、やむをえない場合も含めて現在までに実施はない。現在、徘徊傾向のある利用者はいないが、玄関口ではセンサーがなるように設置されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時など拘束や虐待についての意識付けを再確認し防止に努めている。特に、入居者に対する言葉かけには注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会が殆どなく、内容等については理解しているとはいえない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には対応可能な範囲についての説明も含め、事業所のケアに関する取り組みや緊急時の対応など時間をとり慎重に説明し納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には担当者会議で意見や要望を言ってもらえるような雰囲気作りを努めている。又面会時にも意見や要望など気軽に話してもらえよう対応を心掛けている。	以前まで各階の玄関に設置していた意見箱は家族等への配慮で、投函しやすい1階のエレベーター前に移動された。現在までに投函はないが、意見や要望は直接言われることが多く、改善に向けての努力が行われている。また、食事会を兼ねて家族会も開催されており、前回は大半の家族参加があった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見や要望を聞くように心掛け、スタッフ会議等で一緒に話し合い調整していくよう努めている。	朝夕2回の申し送りと毎月1回のスタッフ会議で、職員間の情報交換が行われている。連絡ノートもそれぞれ内容別に分けて作成され、共有が図られている。職員より、手すりの種類や利用者の履物についてなど日常的に意見が出ており、サービスへの反映が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には役割や担当を決め責任を持って取り組んでもらっている。休憩室はあるが勤務時間中には十分な活用はなされていない。]		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会・勉強会にはなるべく多くの職員が受講できるよう努めている。スタッフ会議で研修内容を報告してもらい全職員で共有できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月実施されるグループホーム連絡協議会に出席し他のグループホームとの交流や意見交換などを通じて質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族・担当ケアマネから十分な情報を提供してもらい、全ての職員が把握するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学に来所していただき、入居者の状況や家族からの要望等聞き安心して利用していただけるよう話し合いの場を作っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の意見や要望を聞き改善に向けた支援の提案や相談を行い、必要に応じて他のサービス機関の紹介を行うなどの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが沢山あり日々生活の中で快活にやりがいを感じて頂ける場面作りや声かけができるよう心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人の様子や行事報告などをするとともに、家族と職員とがよりよい関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠距離の方にはハガキや写真を送ったり時には電話をかけて話ができるよう支援をしている。又親戚や知人が気軽に面会に来れるな雰囲気作りに努めている。	以前は近所の馴染みのスーパーへ毎日のように職員とともに利用者が買い物へかけていたが、今年度は感染症流行の影響で控えた日が多くなった。しかし、墓参りや年末年始の外泊を行った利用者も多く家族による支援があったほか、近所の老人会の方が数人で訪問することもあった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の係わりの中でトラブルが生じた場合は、お互いの関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後面会に行くこともあるが、一部の方にはか過ぎず頻回ではない。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声かけ等で本人の言葉・表情・態度に気をつけ、思いを把握できるようにミーティング等で確認しあっている。	当ホームではセンター方式が活用されている。入居が決定した時点で、家族等本人をよく知る者へ基本情報シートを渡し、細かい情報(生活歴など)が収集できている。ニーズの把握は入居後もその都度追記され、徹底して行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族を中心とした情報提供で把握している。本人との会話の中で知り得た情報や生活歴を全職員で把握し、コミュニケーションが取れるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に目配りし心身の様子観察に心掛けている。少しの変化も見逃すことの無いように日々健康管理と状態把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の係わり合いの中で意見や要望を聞いた上で職員全員で意見交換やモニタリング・担当者会議を行っている。	アセスメントシートを作成後、スタッフ会議でそれを基にした話し合いが行われ、日々の記録(毎日短期目標を記載)や家族からの意見を加味しながら、作成担当者がまとめている。必要があれば担当者会議の開催も行われている。	毎日の記録の中でサービス目標の実践状況とそれに応じた記載は行われているが、ケアプランの達成度、サービス内容の状況、利用者の満足度など総合的に評価することで、次のプランの見直しに繋がりがよくなるので、まとめとしてモニタリングの記載も追加される事が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の介護記録にサービスの実施や生活状態の様子を的確に記入し全職員が確認できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診に関しては本人や家族の状態に応じて、受診や通院同行等臨機応変な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティア等、協力して頂き、交流の場を設けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・外科・精神科などそれぞれかかりつけの医院があり、基本的には家族同行の受診となっているが、不可能なときには職員が代行している	基本的に入居前とかかりつけ医の変更はない。受診については、半数近くが家族支援であるが、年に1回以上はホーム長とケアマネも同行し、情報の共有に努め、往診の方も数名いる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいなかったためじょうたいの変化がみられたときには、主治医に連絡、報告し指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。家族とも回復状況等情報交換しながら、すみやかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と今後本人にとってどうするのが一番いいか話し合いの場を持ち、家族の支えになるように努めている。重度化した場合、事業所ではどこまでの支援ができるか理解を得ている。	ホームの現状を踏まえて体制的にホームでの看取りは難しいとしており、現在までに看取りの実施もない。しかし、可能な限りホームで過ごしてもらおうようにしており、緊急時など必要な場合は、1階のデイサービスの看護師との連携がはかられ、日頃から協力を得られている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。全ての職員が応急手当の勉強会や研修会に参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議での呼びかけにより地域との協力体制はできている。消防署での消防訓練に参加した職員はいるが、事業所での定期的な非難訓練は実施できていない。	当ホームでは、一斉通報装置、スプリンクラーが設置され、非常時の持ち出し品として、利用者一人一人のフェイスシートをまとめたファイルの準備ができています。今月末には、火災を想定した消防署立会いの下の訓練が実施される予定である。	3階建ての建物でもあり、様々な災害(火災だけでなく地震、風水害等)に備え繰り返しの訓練を行う事が大切であるので、今後は、地域住民への参加も呼びかけ、備蓄品の準備にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応を心掛けている。特にトイレ誘導時には他の入居者に分からないよう声かけし対王している。	利用者に対する職員の気になる言動があれば、その都度職員同士で注意し合うように心がけている。また、居室等へ入る際は、必ずノックをし声かけをし、プライバシーの保護に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに判りやすい声かけで対応して、できるだけ自己決定が出来るように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人の希望に添えるよう支援しているが、時と場合によっては職員の都合を優先させる事がある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんに来てもらったり家族の方と行き付けの美容院へ外出される方もおられ、本人の希望に沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・後片付けは職員と一緒に、食事は同じテーブルで楽しくいただけるような雰囲気作りを心がけている。特に行事時のメニューは入居者と相談しながら決めている。	「その人らしい生活」への支援が窺えた。利用者自らエプロンを着用し、職員がそばで見守りながら野菜の皮むきや加熱調理が行われている。誕生日、節句、七草粥など季節に合わせた行事食も利用者にとって好評である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取量は配膳の時に量を加減したり食後の摂取量のチェックをしている。夜間は水筒やペットボトルに麦茶を入れて居室でも補給できるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し声かけをしながら口腔ケアをしていただいている。口腔内の痛みの訴えがある時は必ず確認し、状態によっては歯科への受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人ひとりのサイクルを把握するよう努めている。トイレ誘導時には本人のプライドを損なわないように配慮している。	入居後、排泄パターンを把握しトイレ誘導を行うことでリハビリパンツや尿とりパッドが不要になられた方もいる。利用者個々のサインを見極め、さりげない対応が行われていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事・水分摂取や運動にも気をつけいる。スムーズにいかない方には主治医の指示を仰ぎ下剤にてコントロールしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はほぼ毎日設け一人ひとりの希望に合わせていつでも入浴できるよう支援している。入浴嫌いの人に関しては、声かけ・入浴時間のタイミングを大切にしている。	毎日お風呂の準備を行い、ほぼ一日おきの入浴支援が行われている。入浴拒否者もいるが、声かけの工夫により利用者全員の清潔保持に努めている。また菖蒲湯・ゆず湯など季節感もとりにれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に沿って安心して休息・就寝できるよう支援している。寝付けない時には暖かい飲み物を提供したり、リビングで暫く一緒に過ごす等安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬リスト表を作成し全職員が把握できるように掲示している。投薬時には他職員や本人に声かけ確認を徹底し、飲み込まれたかの確認・チェックを行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できられる範囲で職員と一緒に野菜を刻んだり盛り付けをしたり洗濯物を畳んだりして頂いている。短歌や貼り絵などの作品を飾り、楽しみごとを増やせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見見物には出かけてはいるが日常的な外出支援は十分にできているとは言えない。歩行が不安定な方の外出支援に力を入れていきたい。	今年度は全国的なインフルエンザの流行で外出を控えることが多かった。1階のデイサービスや近所へのゴミ捨て、他の階などへ気分転換を兼ねて短時間でも職員とともにホームの外へ出る機会を多くとるように努められた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がホーム側で管理しているが、お金の管理ができる方は家族の理解を得た上で所持してもらっている。買い物に出掛けた時には本人が支払えるよう本人に手渡す等の工夫をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名ではあるが年賀状や暑中見舞いを自筆で一言添えて書いて頂いている。遠方の家族からハガキや荷物が届いたときは電話をし話をさせていただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを利用者と一緒に作成したり、テーブルに飾ったりして季節感を感じて頂けるように努めている。	共有スペース、廊下等はゆったりした広さで清潔感がある。和室はソファやテレビがあり、窓外の町並みを眺めることができる。また、キッチン是对面式になっており、見守りがしやすいつくりとなっている。床暖房なので室温は適温であり、利用者は、リビングでゆったりと過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室は足を伸ばしてゆったりとくつろげるようにしている。リビングにはソファを置き廊下にも椅子を配置するなどしてちょっと一息つけるような工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物や馴染みのものを生かした居室の飾りつけ・家具の配置などは本人と家族中心にさせていただき、本人が心地よく過ごせるようにさせていただいている。	タンス、テーブル、椅子等の利用者それぞれの馴染みの家具が持ち込まれ、落ち着いた環境づくりへの配慮が行われている。希望があれば家族の宿泊も可能である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」や「洗面所」などわかり易いように大きな目の表示をしている。車椅子使用の方にはタンスの配置に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400940		
法人名	中村合名会社		
事業所名	ケアガーデンオアシス グループホーム「つきとほし」**ほし**		
所在地	〒854-0001 長崎県諫早市福田町2番22号		
自己評価作成日	平成22年2月22日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性が不足した理念であったため、スタッフ会議の中で話し合い、地域との交流を大切にできる理念にするため意見を出し合った。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園・学校から来てくださり交流を楽しまれている。散歩・買い物などにも出かけ地域の方と挨拶を交わしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム交流会・運営推進会議などに参加し認知症についての勉強、又地域の方にも理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の貴重な意見を聞かせて頂く事ができ、入居者へのサービス向上につなげている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告書提出時など解からない時は相談させて頂きながら情報を共有していけるように連携を図っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「一人で家に帰ってきます」と出掛けられる入居者がには一緒について行き信号など安全面に注意しながら本人の思いを尊重できるように支援している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の中で虐待とはの意見を出し合い、対応の不適切はないかなど話し合う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度がある事は知っているが、内容等についてはまだ理解できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。利用料金・事業所の対応可能な範囲・緊急時の対応など納得を得られるような説明に努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・要望・苦情に対しては、その都度話し合い改善に向けて取り組んでいる。訪問時にご家族にこちらから話しかけるように努め話やすい雰囲気作りを心掛けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議において意見・要望などないか問いかけるように心掛けている。悩み・苦情などは個別面談で話し合っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断を実施している。休憩室はあるが勤務中に休憩する時間はとれていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会に受講できるように心掛けている。受講した者は資料などを整理しいつでも閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月定例で実施されるグループホーム連絡協議会に出席し、他のグループホームとの交流・意見交換などを通じて、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から要望・不安など聞き取ることが出来ないことが多く、ご家族から生活暦を尋ねている。センター方式の一部を渡し記入して頂く様にお願いしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの経緯を聞くことに努め、これからどのような生活を送ってほしいのかを尋ね傾聴している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを受け入れ、すぐに実行できる事と話し合いを設けなければできない事も含め、柔軟な対応を行うように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り・箱作りなど得意分野で力を発揮してもらい、役立っている事を感謝の言葉で伝え、お互いに支えあえる関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子・ホームでの行事など家族の訪問時・電話などで伝え安心して頂ける様に心掛けている。遠方の家族には電話で本人の声を聞いて頂けるように支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす知人・友人達と食事やゲームなどを楽しむ交流が今も続いており今後も継続できるように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性は全職員が把握している。入居者同士の関係がうまくいくようにゲーム・食事など楽しく過ごせる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も家族から野菜を届けていただいたりとも継続的な付き合いができています。他の施設に移られた方もこちらからお見舞いに行ったり様子を伺っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「今何がしたいですか?」「好きな物はなんですか?」と言葉をかけ、入居者の思いを把握するように努めている。又それに向かって取り組むように努力している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から生活歴を尋ねるようにし、又センター方式の一部を記入していただき把握するように努めている。又地域との係わりも途絶えないようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活リズムを大切に、発する言葉の強弱によっても精神状態を把握することができている。又その日の様子をケース記録に記入している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望・意見を聞き、今後のケアに向け全職員で話し合いながら介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア日誌・ケース記録がありその日の様子を記録している。又申し送り張があり必ず勤務前には目を通し確認のため押印するように義務付けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	契約時に通院は家族にとお願いしているが、その時の状況により付き添ったり受診対応も含め安心して頂けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行き付けの美容室・かかりつけの病院など入居者が安心して利用できるように支援している。運営推進会議では地域の方との情報交換もあり参考になっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更はなく今までのかかりつけ医に受診している。受診は家族にお願いしているが都合によっては職員が代行するようにしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいいため、状態に変化があった時は主治医に報告し指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供を行い、又入院によるダメージが少しでも防ぐためホームでの対応可能段階で早期退院ができるように医療との連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所が対応できる重度化についての説明を行っている。事業所としてはターミナルケアは行っていない。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成し周知徹底は図っているが、勉強会・訓練などは定期的には実施していないため必要な時に対応できるか不安もある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成はできている。地域消防署との協力体制はとれている。定期的な避難訓練の実施ができていないため今後できるように取り組みたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いに注意し本人の心を傷つけないように努めている。トイレ誘導もさりげなく本人のそばで声をかけるように配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを多くすることで話しやすい場面作りができ、本人の思いや希望なども表現できるように取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は持っているが、外出支援が思うようにできなかつたりする。何を希望するか本人の気持ちを尊重し職員のチームケアで叶えられるように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣類は本人に任せているが外出着の時は一緒に選んだりお手伝いをしている。美容室は本人の行き付けを利用しカットも本人の希望で決定していただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える前に、入居者の嗜好を尋ねたり、食事は職員も一緒に会話をしながら楽しんでいる。又季節の野菜・作り方などを教えて頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や熱発などにより十分な水分摂取を行う時も個別のケア日誌の中に記入し把握できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っている。一人でできる方は磨き残しがないか見守り、できない方は一緒に言葉かけながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を参考にトイレ誘導を行っている。又パット類も本人に合うように検討し羞恥心を傷つけないように配慮している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはすぐに薬に頼らず、繊維質の多い食材・水分摂取・運動などで自然排便につながるよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後と入浴することができ本人の希望する時に入浴して頂いている。入浴剤で色・香りを楽しんでもらえるように工夫している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムの中で、日中の傾眠を少なくし適度の運動で夜間良眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースにセットしてあり、毎回名前・日付を確認し手渡している。処方箋も見やすい所に貼ってあり副作用等も確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が出来る事を把握しお願いすることで自分の役割として力を発揮することができ、自信につながっている。職員は感謝の気持ちを伝えるように統一している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の花見見物には出かけているが日常的な外出支援は思うようにできていないと思う。今後は家族・地域の人達の力を借りながら希望に沿った外出ができるよう取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方はホームで預かっており買い物をする時にその中で支払うようにしている。手元に持っている方は自分で財布からお金を出し買い物した実感を味わっていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から荷物が届いたり、手紙がきたりすると電話をかけお礼を伝えたり昔話をされたりしている。手紙を書かれる方は一緒にポストまで行き投函できるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・リビングには季節の花を飾り季節感を取り入れている。室温・音量なども入居者に尋ねるように心掛け快適に過ごせるように取り組んでいる。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい時は個室に行かれたり、リビングでは皆さんと食事・ゲームなど楽しまれている。和室はソファ・テレビがあり落ち着いてくつろげる場所がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた品物・家具などを持ち込んで頂き居心地の良ように配慮して頂いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口にはネームプレートを下げトイレ・洗面所には解かりやすいように記入した紙を貼っている。又押し車・車椅子の使用もあり物の配置にも配慮している。		